Cisco UCS B シリーズブレードサーバ Windows インストレーションガイド

初版：2011 年 04 月 22 日

最終更新：2015 年 03 月 20 日

シスコシステムズ合同会社
〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー
http://www.cisco.com/jp
お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター
0120-092-255 （フリーコール、携帯・PHS含む）
電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00
http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/

Text Part Number: OL-22764-04-J

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（**www.cisco.com/jp/go/safety_warning/**）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。 このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。 このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。 添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

FCC クラス A 準拠装置に関する記述：この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス A デジタル装置の制限に準拠していることが確認済みです。 これらの制限は、商業環境で装置を使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。 この装置は、無線周波エネルギーを生成、使用、または放射する可能性があり、この装置のマニュアルに記載された指示に従って設置および使用しなかった場合、ラジオおよびテレビの受信障害が起こることがあります。住宅地でこの装置を使用すると、干渉を引き起こす可能性があります。その場合には、ユーザ側の負担で干渉防止措置を講じる必要があります。

FCC クラス B 準拠装置に関する記述：この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス B デジタル装置の制限に準拠していることが確認済みです。 これらの制限は、住宅地で使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。 この装置は、無線周波エネルギーを生成、使用、または放射する可能性があり、指示に従って設置および使用しなかった場合、ラジオおよびテレビの受信障害が起こることがあります。 ただし、特定の設置条件において干渉が起きないことを保証するものではありません。 装置がラジオまたはテレビ受信に干渉する場合には、次の方法で干渉が起きないようにしてください。干渉しているかどうかは、装置の電源のオン/オフによって判断できます。

- 受信アンテナの向きを変えるか、場所を移動します。
- 装置と受信機との距離を離します。
- 受信機と別の回路にあるコンセントに装置を接続します。
- 販売業者またはラジオやテレビに詳しい技術者に連絡します。

シスコでは、この製品の変更または改造を認めていません。変更または改造した場合には、FCC認定が無効になり、さらに製品を操作する権限を失うことになります。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。 シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。 マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。 説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: http://www.cisco.com/go/trademarks. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

© 2011-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

目 次

はじめに v

対象読者 v

表記法 v

Cisco UCS の関連ドキュメント vii

マニュアルに関するフィードバック vii

インストールのチェックリストと前提条件 1

インストールの概要のチェックリスト 1

インストールの前提条件のチェックリスト 2

サービス プロファイル設定の前提条件 4

SAN のブート トポロジの例 6

インストール ISO イメージのマウント 7

Windows Server 2003 のインストール 9

内部ドライブへの Windows Server 2003 のインストール 9

ブート可能 SAN LUN への Windows Server 2003 のインストール 11

Windows Server 2012 および Windows Server 2008 のインストール 15

内部ドライブへの Windows Server 2012 または Windows Server 2008 のインストール 15

ブート可能 SAN LUN への Windows Server 2012 または Windows Server 2008 のインストール 18

インストール ドライバの情報 21

Windows のインストール ドライバ 21

取り付け済みデバイスの表示 22

UCS Manager GUI を使用した取り付け済みデバイスの表示 22

UCS Manager CLI を使用した取り付け済みインターフェイス カードの表示 23

KVM コンソールを使用した取り付け済みデバイスの表示 23

はじめに

この前書きは、次の項で構成されています。

- 対象読者，v ページ
- 表記法，v ページ
- Cisco UCS の関連ドキュメント，vii ページ
- マニュアルに関するフィードバック，vii ページ

対象読者

このガイドは、次の 1 つ以上に責任を持ち、専門知識を備えたデータセンター管理者を主な対象にしています。

- サーバ管理
- ストレージ管理
- ネットワーク管理
- ネットワーク セキュリティ

表記法

テキストのタイプ	用途
GUI 要素	タブの見出し、領域名、フィールドのラベルのようなGUI要素は、[GUI要素] のように示しています。 ウィンドウ、ダイアログボックス、ウィザードのタイトルのようなメイン タイトルは、**[メイン タイトル]** のように示しています。
マニュアルのタイトル	マニュアルのタイトルは、イタリック体（*italic*）で示しています。

テキストのタイプ	用途
TUI 要素	テキストベースのユーザ インターフェイスでは、システムによって表示されるテキストは、courier フォントで示しています。
システム出力	システムが表示するターミナル セッションおよび情報は、courier フォントで示しています。
CLI コマンド	CLI コマンドのキーワードは、ボールド体（**bold**）で示しています。 CLI コマンド内の変数は、イタリック体（*italic*）で示しています。
[ ]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{x | y | z}	必ずいずれか1つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x | y | z]	どれか1つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。 string の前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めて string とみなされます。
< >	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで示しています。
[ ]	システム プロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!、#	コードの先頭に感嘆符（!）またはポンド記号（#）がある場合には、コメント行であることを示します。

（注） 「注釈」です。 役立つ情報や、このドキュメント以外の参照資料などを紹介しています。

ヒント 「問題解決に役立つ情報」です。 ヒントには、トラブルシューティングや操作方法ではなく、ワンポイントアドバイスと同様に知っておくと役立つ情報が記述される場合もあります。

注意 「要注意」の意味です。 機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

ワンポイント アドバイス　時間を節約する方法です。 ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。

警告　安全上の重要事項

「危険」の意味です。 人身事故を予防するための注意事項が記述されています。 機器の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止対策に留意してください。 各警告の最後に記載されているステートメント番号を基に、装置に付属の安全についての警告を参照してください。

これらの注意事項を保管しておいてください。

Cisco UCS の関連ドキュメント

ドキュメント ロードマップ

すべての B シリーズ マニュアルの一覧については、http://www.cisco.com/go/unifiedcomputing/b-series-doc で入手できる『*Cisco UCS B-Series Servers Documentation Roadmap*』を参照してください。

すべての C シリーズ マニュアルの一覧については、http://www.cisco.com/go/unifiedcomputing/c-series-doc で入手できる『*Cisco UCS C-Series Servers Documentation Roadmap*』を参照してください。

その他のマニュアル リソース

ドキュメントの更新通知を受け取るには、Cisco UCS Docs on Twitter をフォローしてください。

マニュアルに関するフィードバック

このマニュアルに関する技術的なフィードバック、または誤りや記載もれなどお気づきの点がございましたら、HTML ドキュメント内のフィードバック フォームよりご連絡ください mailto:ucs-docfeedback@cisco.com。 ご協力をよろしくお願いいたします。

第 1 章

インストールのチェックリストと前提条件

この章は、次の内容で構成されています。

- インストールの概要のチェックリスト，1 ページ
- インストールの前提条件のチェックリスト，2 ページ
- サービス プロファイル設定の前提条件，4 ページ
- SAN のブート トポロジの例，6 ページ
- インストール ISO イメージのマウント，7 ページ

インストールの概要のチェックリスト

Cisco UCS B シリーズ サーバにオペレーティング システム（OS）をインストールするには、次のタスクを実行します。

完了	タスク	その他の情報
	インストールの前提条件のチェックリスト，（2 ページ） で説明されている前提条件を満たします。	インストールやライセンスの要件の詳細については、インストールするオペレーティング システムのドキュメントを参照してください。
	サービス プロファイル設定の前提条件，（4 ページ） で説明されているサービス プロファイル設定の前提条件を満たします。	サービスプロファイルの詳細については、使用している Cisco UCS Manager のバージョンに関する GUI または CLI のコンフィギュレーション ガイドを参照してください。
	KVM コンソールを起動し、インストール メディアをマウントします。	詳細については、インストール ISO イメージのマウント，（7 ページ）を参照してください。

完了	タスク	その他の情報
	OS の手順の説明に従って、インストールを完了します。	詳細については、次のいずれかを参照してください。 • 内部ドライブへの Windows Server 2003 のインストール，（9 ページ） • ブート可能 SAN LUN への Windows Server 2003 のインストール，（11 ページ） • 内部ドライブへの Windows Server 2012 または Windows Server 2008 のインストール，（15 ページ） • ブート可能 SAN LUN への Windows Server 2012 または Windows Server 2008 のインストール，（18 ページ）

インストールの前提条件のチェックリスト

オペレーティング システム（OS）のインストールを開始する前に、次のアイテムがあり、次のタスクを完了していることを確認します。

完了	前提条件
	インストール ターゲット サーバが、インストール先のオペレーティング システム（OS）のバージョンをサポートしていることを確認します。 サポートされるバージョンについては、適切な PDF を参照するか、インタラクティブな *UCS* ハードウェアおよびソフトウェア相互運用性ユーティリティ を使用してください。 いずれも、次の URL で入手できます。http://www.cisco.com/web/techdoc/ucs/interoperability/matrix/matrix.html。 （注） 特定のリリースの相互運用性情報は、リリースが公開された後に行われるサードパーティの認証テストに依存します。 そのため、相互運用性情報は、リリースが公開されてから数ヵ月経たないと利用できない場合があります。
	Cisco UCS Manager GUI 用に設定した IP アドレスと、管理特権を持つログイン アカウントを用意します。

完了	前提条件
	OS 用のインストール メディア（DVD または ISO イメージ）を用意します。 アクティベーション キーが必要なソフトウェアの場合、その情報も用意します。 **ヒント** 仮想デバイスとしてマップする ISO イメージから OS をインストールすることをお勧めします。 物理ディスクからインストールすることもできますが、この方法の場合、KVM ケーブルと USB コネクタを使用して、OS をインストールするブレードに外部 USB CD/DVD ドライブを取り付ける必要があります。詳細については、使用しているブレード サーバの『*Hardware Installation Guide*』を参照してください。 ハードウェア設置ガイドは、次の URL で入手できます。http://www.cisco.com/en/US/products/ps10477/prod_installation_guides_list.html
	Cisco UCS B-Series Drivers DVD またはこの DVD の ISO イメージを用意します。 iSCSI を介して使用可能なドライブにオペレーティング システムをインストールする場合、iSCSI は VIC のイーサネットの部分から使用可能になるため、インストール プロセス中に eNIC ドライバをロードするネットワーク フォルダを選択する必要があります。 『*Cisco UCS B-Series Drivers DVD*』 ISO イメージは、Cisco.com サポート サイトで [ダウンロード] > [サーバ - ユニファイド コンピューティング] > [Cisco UCS B シリーズ ブレード サーバ ソフトウェア] > [ユニファイド コンピューティング システム（UCS）のドライバ] を選択して入手できます。 直接 URL は http://www.cisco.com/cisco/software/type.html?mdfid=283853163&flowid=25821 です。 **（注）** ISO イメージをダウンロードする場合、そのイメージ DVD に書き込むか、サードパーティのユーティリティを使用してラップトップのハードドライブにイメージをマウントします。 インストール時には、この DVD の適切なドライバ イメージ ファイルを、サーバからアクセスできる場所に抽出して、仮想フロッピーとしてマウントできるようにする必要があります。
	サーバに LSI MegaRAID コントローラがある場合、サーバのドライブ用に RAID 設定を構成します。 OS をインストールする前に LSI MegaRAID LUN を設定していないと、インストール時にディスク検出エラーが発生し、「No Device Found」といったエラー メッセージが表示される可能性があります。

これらの前提条件を満たしたら、適切に設定したサービス プロファイルをサーバに関連付けられるようにします。 詳細については、サービス プロファイル設定の前提条件, （4 ページ）を参照してください。

サービス プロファイル設定の前提条件

インストールする OS のバージョンに関係なく、インストール ターゲット サーバを、適切に設定したサービス プロファイルに関連付ける必要があります。 サービス プロファイルには、サーバに適用されているすべての情報と設定が含まれます。

次のチェックリストは、サービスプロファイルに必要な最小限の構成設定を示しています。 これらの設定の詳細な手順については、使用している Cisco UCS Manager のバージョンのコンフィギュレーション ガイド。 コンフィギュレーション ガイドは、次の URL で入手できます。http://www.cisco.com/en/US/products/ps10281/products_installation_and_configuration_guides_list.htmlを参照してください。

完了	設定作業	その他の情報
	Cisco UCS Manager を使用して、ネットワーク上の物理リソースと論理リソースを識別するプールを設定します。 サーバのサービス プロファイルを構築するときに、これらのプールから選択します。	Cisco UCS を使用すると、サーバ、MAC アドレス、WWN アドレス、UUID 接尾辞、および管理 IP アドレスのプールも定義できます。
	ターゲット サーバとネットワーク接続する各アップリンク ファブリックに、1 つの名前を付けた VSAN を設定します。	名前を付けた VSAN によって、特定の外部 SAN ファブリックへの接続が作成されます。
	各 VSAN を、その対応するファブリック インターコネクト上の物理アップリンク ポートに関連付けます。	たとえば、Fabric A 用に作成した VSAN を、Fabric Interconnect A 上で使用可能な物理ポートに関連付けます。
	ターゲット サーバとネットワーク接続する各アップリンク ファブリックに、1 つの vHBA ポリシーを設定します。	この vHBA ポリシーでは、vHBA を SAN に接続する方法を定義します。
	サーバに LSI MegaRAID コントローラがある場合、[Local Disk Configuration] ポリシーを作成することで、システムでドライバの RAID 設定を構成します。	OS をインストールする前に LSI MegaRAID LUN を設定していないと、インストール時にディスク検出エラーが発生し、「No Device Found」といったエラー メッセージが表示される可能性があります。

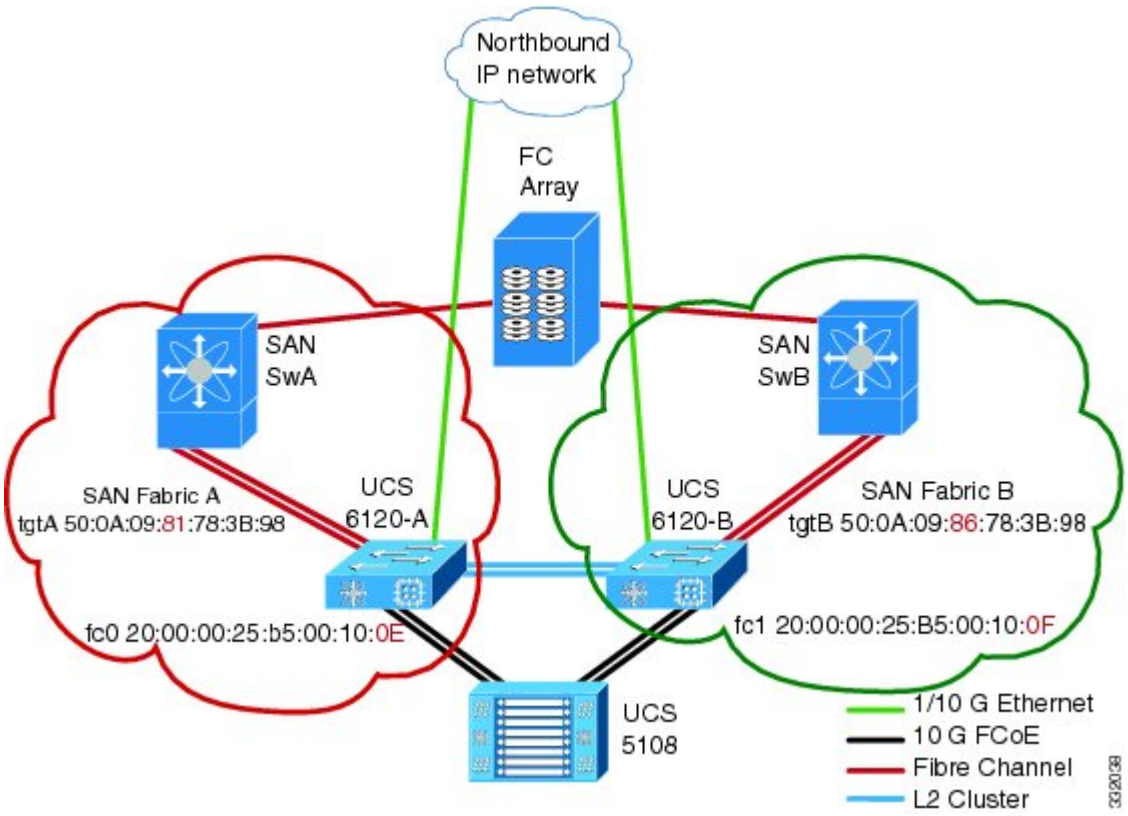
完了	設定作業	その他の情報
	実行するインストールの種類に合わせて、ブート ポリシーを作成します。	内部ドライブに OS をインストールする場合、次の [Boot Order] を定義します。 **1** CD-ROM **2** フロッピー（Windows 2003 のみ） **3** ローカル ディスク ブート可能 SAN LUN にインストールする場合、次の [Boot Order] を定義します。 **1** CD-ROM **2** フロッピー（Windows 2003 のみ） **3** ストレージ • SAN プライマリ • SAN セカンダリ
	サーバに2枚のネットワーク インターフェイス カード（NIC）がある場合（Cisco UCS CNA M71KR-E など）、両方のNICにユーザ定義のMACアドレスを割り当てるために、各カードに別の vNIC ポリシーを作成する必要があります。	1 つの vNIC ポリシーのみをサービス プロファイルに関連付けると、Windows ではハードウェアベースの MAC アドレスが 2 枚目の NIC に割り当てられます。 後でサービス プロファイルを別のサーバに移動する場合、ハードウェアベースの MAC アドレスはそのプロファイルと共に移動しません。また、MAC アドレスにリンクされているプログラムがある場合、そのプログラムで適切なサーバの場所を特定できなくなります。
	サーバの管理に必要なその他のポリシーを設定します。	使用できるポリシーの詳細な一覧については、Cisco UCS Manager の『*Configuration Guides*』を参照してください。
	ターゲット ブレード サーバに合わせて、新しいサービス プロファイルを作成するか、既存のサービスプロファイルを変更します。 このサービス プロファイルは、ターゲット サーバ用に作成したネットワーク設定とポリシーに関連付けます。	複数のサーバに同じ OS をインストールする予定の場合、サービス プロファイル テンプレートを作成し、作成した構成設定にそのテンプレートを関連付けることもできます。 また、そのテンプレートを使用して、ターゲット サーバごとに独自のサービス プロファイルを作成します。

完了	設定作業	その他の情報
	サービス プロファイルをターゲット サーバに関連付け、サーバをリブートします。	ターゲット サーバをリブートすると、サービス プロファイルの設定がサーバに適用されます。 **重要** サーバのリブートが完了し、Cisco UCS Manager のサービス プロファイルがサーバへ適切に関連付けられるまで、ISO インストール イメージまたはドライバ イメージをマウントできません。

SAN のブート トポロジの例

次の例は、SAN のブート機能を使用する Cisco UCS ドメインのトポロジを示しています。

図 *1*：*SAN* のブート トポロジ



インストール ISO イメージのマウント

はじめる前に

- インストールの前提条件のチェックリスト, （2 ページ）とサービス プロファイル設定の前提条件, （4 ページ）に説明されている前提条件を満たします。
- Cisco UCS のユーザ名とパスワードがあることを確認します。
- サービスプロファイル名、またはオペレーティングシステム（OS）をインストールするサーバ名を確認します。
- サーバがサービスプロファイルに関連付けられていることを確認します。詳細については、次を参照してください。使用している Cisco UCS Manager のバージョンのコンフィギュレーション ガイド。 コンフィギュレーション ガイドは、次の URL で入手できます。http://www.cisco.com/en/US/products/ps10281/products_installation_and_configuration_guides_list.html

  ISO イメージをサーバにマウントするには、サーバをサービス プロファイルに関連付ける必要があります。

手順

ステップ 1 Web ブラウザで、Cisco UCS Manager GUI の Web リンクを入力または選択します。

例：
HTTP アクセスのデフォルトの Web リンクは、IPv4 アドレスの場合は `http://UCSManager_IP`、IPv6 アドレスの場合は `http://UCSManager_IP6` です。 HTTPS アクセスのデフォルトの Web リンクは、IPv4 アドレスの場合は `https://UCSManager_IP`、IPv6 アドレスの場合は `https://UCSManager_IP6` です。 スタンドアロン設定では、*UCSManager_IP* または *UCSManager_IP6* は、ファブリック インターコネクトの管理ポートの IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスをそれぞれ表します。 クラスタ設定では、*UCSManager_IP* または *UCSManager_IP6* は、Cisco UCS Manager に割り当てられた IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスをそれぞれ表します。

ステップ 2 Cisco UCS Manager の起動ページ の [Launch KVM Manager] をクリックします。

ステップ 3 [Security Alert] ダイアログボックスが表示された場合は、[Yes] をクリックしてセキュリティ証明書を受け入れ、続行します。

ステップ 4 [UCS - KVM Launch Manager Login] ページで、次の手順を実行します。

a) Cisco UCS のユーザ名およびパスワードを入力します。

b) （任意） Cisco UCS 実装に複数のドメインが含まれている場合は、[Domain] ドロップダウンリストから適切なドメインを選択します。

c) [OK] をクリックします。

ステップ 5 KVM Launch Manager の [Service Profiles] テーブルで、次の手順を実行します。

a) OS のインストールに使用するサービス プロファイルとそれに関連するサーバを含む行を探します。
b) そのサーバの [Launch KVM] 列の [Launch] をクリックします。
別ウィンドウに KVM コンソールが表示されます。

ヒント KVM セッションを開いたときにキーボードの Caps Lock キーがオンになっており、その後に続いて Caps Lock キーをオフにすると、**KVM コンソール**は Caps Lock キーがオンのときのように動作する場合があります。 KVM コンソールとキーボードを同期させるには、**KVM コンソール**にフォーカスがない状態で Caps Lock キーを 1 度押し、次に **KVM コンソール**にフォーカスを置いて Caps Lock キーをもう一度押します。

ステップ 6 仮想メディアへのアクセス方法は、使用している **KVM コンソール**のバージョンによって異なります。 仮想メディアにアクセスするには、次のいずれかを実行します。

- [Virtual Media] タブをクリックします。
- [VM] タブをクリックします。
- [Tools] > [Virtual Media] を選択します。

ステップ 7 [Add Image] をクリックし、インストール ISO イメージを含むディレクトリに移動します。

ステップ 8 ISO イメージ ファイルを選択し、[Open] をクリックします。

ステップ 9 [Client View] 領域で、ISO ファイルに関連付けられている [Mapped] 列のチェックボックスをオンにし、マッピングが完了するまで待ちます。

ヒント [Details] をクリックしてマッピングの進行状況を表示します。

次の作業

インストールする OS に対応するインストール手順を参照して OS をインストールします。

第 2 章

Windows Server 2003 のインストール

この章は、次の内容で構成されています。

- 内部ドライブへの Windows Server 2003 のインストール，9 ページ
- ブート可能 SAN LUN への Windows Server 2003 のインストール，11 ページ

内部ドライブへの Windows Server 2003 のインストール

ここでは、Cisco UCS Manager GUI と **KVM コンソール**を使用して、内部ドライブに Windows Server 2003 Service Pack 2（SP2）x86 または x64 をインストールする方法について説明します。

その他のバージョンの Windows Server 2003 はサポートされていません。

はじめる前に

インストールの前提条件のチェックリスト，（2 ページ）とサービス プロファイル設定の前提条件，（4 ページ）に説明されている前提条件を満たします。

手順

ステップ 1 実際に取り付けているデバイスのドライバは、*Cisco UCS B-Series Drivers DVD* または DVD の ISO ファイルから探し、サーバからアクセスできる場所に抽出します。

ヒント 必要なドライバがわからない場合は、サーバをリブートし、出力メッセージを確認します。 デバイスが初期化されると、ブート プロセスでそのデバイスに関する情報が表示されます。 詳細については、インストール ドライバの情報，（21 ページ）を参照してください。

ステップ 2 仮想メディアから OS またはドライバをインストールする場合、**KVM コンソール**を起動し、インストール ISO イメージのマウント，（7 ページ）の説明に従ってメディアをマウントします。

ステップ 3 次の手順で、マス ストレージ コントローラまたは SAN HBA デバイス用のドライバ IMG ファイルをマウントします。

a) [Add Image] をクリックし、デバイスとオペレーティング システムのドライバ IMG イメージ ファイルが含まれるディレクトリに移動します。
b) IMG イメージ ファイルを選択し、[Open] をクリックします。
c) デバイスをフロッピーとしてエミュレートするかどうかを確認するメッセージが表示されたら、[Yes] をクリックします。
d) [Client View] 領域で、IMG 仮想フロッピーに関連付けられている [Mapped] 列のチェックボックスをオンにし、マッピングが完了するまで待ちます。

ステップ 4 次のいずれかの方法で、サーバの電源を再投入します。

- **KVM コンソール**の [KVM] タブを開き、[Macros] > Ctrl+Alt+Del を選択します。
- Cisco UCS Manager GUI で、[General] タブの [Actions] 領域の [Reset] をクリックします。
- 物理サーバの電源ボタンを押します。

ヒント サーバがインストール メディアからブートしない場合、サービス プロファイル設定の前提条件, （4 ページ）の説明に従って、関連するサービス プロファイルに正しいブート順が設定されていることを確認します。

ステップ 5 通常のブート順を上書きし、インストール メディアからブートするには、**KVM コンソール**の [KVM] タブで、ブート メッセージを確認し、[Boot Menu] を開くメッセージが表示されたら、F6 を押します。

ステップ 6 [Boot Menu] 画面で、次のいずれかを実行します。

- ISO イメージを使用する場合、[Cisco Virtual CD/DVD] を選択し、Enter を押します。
- 物理インストール ディスクを使用する場合、そのディスクが挿入されているディスク ドライブを選択し、Enter を押します。

選択したデバイスからサーバがリブートし、イメージまたはディスクから OS のインストールが開始されます。

ステップ 7 CD からブートすることを確認するメッセージが表示されたら、Enter を押します。 インストール プロセスの初期にウィンドウの下部に表示される [Press F6 to install third-party drivers] というメッセージに注意します。

重要 [Viking eUSB] と表示されているドライブには、Windows 2003 OS またはドライバをインストールしないでください。 OS では、eUSB ドライブはローカル ドライブと同じと見なされますが、Cisco UCS Manager では、サーバのブート ドライブとして使用するローカル ドライブを指定できません。 UCS Manager では、常に物理ローカル ドライブからサーバが起動され、内部 USB（eUSB）ドライブがあっても無視されます。

ステップ 8 仮想フロッピーからマス ストレージ コントローラまたは HBA デバイスのドライバをインストールします。

a) サードパーティのドライバをインストールするように求めるメッセージが表示されたら、F6 を押します。 追加デバイスを指定するように求めるメッセージが表示されるまで、インストール プロセスを確認します。
b) 追加デバイスを指定するように求めるメッセージが表示されたら、S を押します。
c) リストからデバイスを選択して Enter を押します。

仮想フロッピーからドライバがインストールされます。

ステップ 9 自社の要件と標準に従い、インストールの進行状況を監視し、必要に応じてメッセージに応答してインストールを完了します。
Windows のインストールが完了すると、サーバが再びリブートします。続いて、Ctrl+Alt+Del を押し、ログインして Windows デスクトップにアクセスするよう求めるメッセージが表示されます。 Windows インストール プロセス中に指定したログイン資格情報を使用します。

（注） この時点では、サーバ チップセットやイーサネット コントローラなどのデバイス用のデバイス ドライバがまだインストールされていません。 **Windows Device Manager** で、ドライバが必要なデバイスは黄色のフラグ付きで表示されます。

ステップ 10 **Windows File Manager** を使用して、手順 1 で Cisco ドライバを抽出したフォルダに移動します。ドライバ DVD フォルダ構造の詳細については、Windows のインストール ドライバ, （21 ページ）を参照してください。

ステップ 11 **Windows Device Manager** を起動し、まだ黄色のフラグが付いているデバイスがないか確認します。 黄色のフラグが付いているフラグがあれば、**Device Manager** を使用してドライバを手動でインストールします。

ブート可能 SAN LUN への Windows Server 2003 のインストール

ここでは、Cisco UCS Manager GUI と **KVM コンソール**を使用して、ブート可能 SAN LUN に Windows Server 2003 Service Pack 2（SP2）x86 または x64 をインストールする方法について説明します。

はじめる前に

- インストールの前提条件のチェックリスト, （2 ページ）とサービス プロファイル設定の前提条件, （4 ページ）に説明されている前提条件を満たします。
- SAN で LUN または RAID ボリュームを構成し、SAN に接続して SAN HBA から LUN へのパスが 1 つ（1 つのみ）存在していることを確認します。

手順

ステップ 1 実際に取り付けているデバイスのドライバは、*Cisco UCS B-Series Drivers DVD* または DVD の ISO ファイルから探し、サーバからアクセスできる場所に抽出します。

ヒント 必要なドライバがわからない場合は、サーバをリブートし、出力メッセージを確認します。 デバイスが初期化されると、ブート プロセスでそのデバイスに関する情報が表示されます。 詳細については、インストール ドライバの情報, （21 ページ）を参照してください。

ステップ 2 仮想メディアから OS またはドライバをインストールする場合、**KVM コンソール**を起動し、インストール ISO イメージのマウント，（7 ページ）の説明に従ってメディアをマウントします。

ステップ 3 次の手順で、マス ストレージ コントローラまたは SAN HBA デバイス用のドライバ IMG ファイルをマウントします。

a) [Add Image] をクリックし、デバイスとオペレーティング システムのドライバ IMG イメージ ファイルが含まれるディレクトリに移動します。
b) IMG イメージ ファイルを選択し、[Open] をクリックします。
c) デバイスをフロッピーとしてエミュレートするかどうかを確認するメッセージが表示されたら、[Yes] をクリックします。
d) [Client View] 領域で、IMG 仮想フロッピーに関連付けられている [Mapped] 列のチェックボックスをオンにし、マッピングが完了するまで待ちます。

ステップ 4 次のいずれかの方法で、サーバの電源を再投入します。

- **KVM コンソール**の [KVM] タブを開き、[Macros] > Ctrl+Alt+Del を選択します。
- Cisco UCS Manager GUI で、[General] タブの [Actions] 領域の [Reset] をクリックします。
- 物理サーバの電源ボタンを押します。

ヒント サーバがインストール メディアからブートしない場合、サービス プロファイル設定の前提条件，（4 ページ）の説明に従って、関連するサービス プロファイルに正しいブート順が設定されていることを確認します。

ステップ 5 通常のブート順を上書きし、インストール メディアからブートするには、**KVM コンソール**の [KVM] タブで、ブート メッセージを確認し、[Boot Menu] を開くメッセージが表示されたら、F6 を押します。

ステップ 6 [Boot Menu] 画面で、次のいずれかを実行します。

- ISO イメージを使用する場合、[Cisco Virtual CD/DVD] を選択し、Enter を押します。
- 物理インストール ディスクを使用する場合、そのディスクが挿入されているディスク ドライブを選択し、Enter を押します。

選択したデバイスからサーバがリブートし、イメージまたはディスクから OS のインストールが開始されます。

ステップ 7 CD からブートすることを確認するメッセージが表示されたら、Enter を押します。 インストール プロセスの初期にウィンドウの下部に表示される [Press F6 to install third-party drivers] というメッセージに注意します。

重要 [Viking eUSB] と表示されているドライブには、Windows 2003 OS またはドライバをインストールしないでください。 OS では、eUSB ドライブはローカル ドライブと同じと見なされますが、Cisco UCS Manager では、サーバのブート ドライブとして使用するローカル ドライブを指定できません。 UCS Manager では、常に物理ローカル ドライブからサーバが起動され、内部 USB（eUSB）ドライブがあっても無視されます。

ステップ 8 仮想フロッピーからマス ストレージ コントローラまたは HBA デバイスのドライバをインストールします。

a) サードパーティのドライバをインストールするように求めるメッセージが表示されたら、F6 を押します。 追加デバイスを指定するように求めるメッセージが表示されるまで、インストール プロセスを確認します。
b) 追加デバイスを指定するように求めるメッセージが表示されたら、S を押します。
c) リストからデバイスを選択して Enter を押します。
仮想フロッピーからドライバがインストールされます。

ステップ 9 自社の要件と標準に従い、インストールの進行状況を監視し、必要に応じてメッセージに応答してインストールを完了します。
Windows のインストールが完了すると、サーバが再びリブートします。続いて、Ctrl+Alt+Del を押し、ログインして Windows デスクトップにアクセスするよう求めるメッセージが表示されます。 Windows インストール プロセス中に指定したログイン資格情報を使用します。

（注） この時点では、サーバ チップセットやイーサネット コントローラなどのデバイス用のデバイス ドライバがまだインストールされていません。 **Windows Device Manager** で、ドライバが必要なデバイスは黄色のフラグ付きで表示されます。

ステップ 10 **Windows File Manager** を使用して、手順 1 で Cisco ドライバを抽出したフォルダに移動します。ドライバ DVD フォルダ構造の詳細については、Windows のインストール ドライバ, （21 ページ）を参照してください。

ステップ 11 **Windows Device Manager** を起動し、まだ黄色のフラグが付いているデバイスがないか確認します。 黄色のフラグが付いているフラグがあれば、**Device Manager** を使用してドライバを手動でインストールします。

第 3 章

Windows Server 2012 および Windows Server 2008 のインストール

この章は、次の内容で構成されています。

- 内部ドライブへの Windows Server 2012 または Windows Server 2008 のインストール，15 ページ
- ブート可能 SAN LUN への Windows Server 2012 または Windows Server 2008 のインストール，18 ページ

内部ドライブへの Windows Server 2012 または Windows Server 2008 のインストール

ここでは、Cisco UCS Manager GUI と **KVM コンソール**を使用して、内部ドライブに Windows Server 2012、Windows Server 2008 x64、または Windows Server 2008 R2 x64 と必要なドライバをインストールする方法について説明します。

はじめる前に

インストールの前提条件のチェックリスト，（2 ページ）とサービス プロファイル設定の前提条件，（4 ページ）に説明されている前提条件を満たします。

手順

ステップ 1 実際に取り付けているデバイスのドライバは、*Cisco UCS B-Series Drivers DVD* または DVD の ISO ファイルから探し、サーバからアクセスできる場所に抽出します。

ヒント 必要なドライバがわからない場合は、サーバをリブートし、出力メッセージを確認します。 デバイスが初期化されると、ブート プロセスでそのデバイスに関する情報が表示されます。 詳細については、インストール ドライバの情報，（21 ページ）を参照してください。

ステップ 2 仮想メディアから OS またはドライバをインストールする場合、**KVM コンソール**を起動し、インストール ISO イメージのマウント，（7 ページ）の説明に従ってメディアをマウントします。

ステップ 3 次のいずれかの方法で、サーバの電源を再投入します。

- **KVM コンソール**の [KVM] タブを開き、[Macros] > Ctrl+Alt+Del を選択します。
- Cisco UCS Manager GUI で、[General] タブの [Actions] 領域の [Reset] をクリックします。
- 物理サーバの電源ボタンを押します。

ヒント サーバがインストール メディアからブートしない場合、サービス プロファイル設定の前提条件，（4 ページ）の説明に従って、関連するサービス プロファイルに正しいブート順が設定されていることを確認します。

ステップ 4 通常のブート順を上書きし、インストール メディアからブートするには、**KVM コンソール**の [KVM] タブで、ブート メッセージを確認し、[Boot Menu] を開くメッセージが表示されたら、F6 を押します。

ステップ 5 [Boot Menu] 画面で、次のいずれかを実行します。

- ISO イメージを使用する場合、[Cisco Virtual CD/DVD] を選択し、Enter を押します。
- 物理インストール ディスクを使用する場合、そのディスクが挿入されているディスク ドライブを選択し、Enter を押します。

選択したデバイスからサーバがリブートし、イメージまたはディスクから OS のインストールが開始されます。

ステップ 6 CD からブートすることを確認するメッセージが表示されたら、Enter を押します。 会社の要件と標準に従ってインストールに関する質問に答え、[Where do you want to install Windows?] 画面が表示されたら、次の手順に進みます。

重要 [Viking eUSB] と表示されているドライブには、Windows OS またはドライバをインストールしないでください。 OS では、eUSB ドライブはローカル ドライブと同じと見なされますが、Cisco UCS Manager では、サーバのブート ドライブとして使用するローカル ドライブを指定できません。 UCS Manager では、常に物理ローカル ドライブからサーバが起動され、内部 USB（eUSB）ドライブがあっても無視されます。

ステップ 7 Windows に「Where do you want to install Windows?」 の画面が表示されたら、Cisco ドライバ ISO イメージをマウントします。これで、Windows をインストールする前に基本ドライバをインストールできます。 次の手順を実行します。

a) **KVM コンソール**の [VM] タブまたは [Virtual Media Session] ダイアログボックスに戻ります。
b) 同時にマッピングできる仮想 CD/DVD は 1 つのみなので、既存の仮想 CD/DVD 接続がある場合は、その接続に関連するチェックボックスをオフにしてマッピングを解除します。
ヒント 新しい接続を作成できることを確認するには、[Details] テーブルを参照します。 最初の行を見ると、[Virtual CD/DVD] がマッピングされていないことがわかります。
c) [Add Image] をクリックし、マス ストレージまたは HBA デバイスのシスコ ドライバ ISO イメージを含むディレクトリに移動します。
d) ISO イメージ ファイルを選択し、[Open] をクリックします。

e) [Client View] 領域で、ISO ファイルに関連付けられている [Mapped] 列のチェックボックスをオンにし、マッピングが完了するまで待ちます。

f) [KVM] タブの Windows インストール メッセージに戻ります。

ステップ 8 ドライバをインストールします。

a) 「Where do you want to install Windows?」 の画面の表の下に表示される [Load Driver] リンクをクリックします。

b) [Load Driver] ダイアログボックスの [Browse] をクリックします。

c) マッピングした仮想 DVD デバイスの適切なフォルダに移動し、インストールするドライバを選択します。

d) [OK] をクリックします。
ドライバのロードが完了したら、[Select the driver to install] ダイアログボックスが開き、新しいドライバが表示されます。

e) お使いのデバイス用のドライバを選択し、[Next] をクリックします。 Windows のステータス バーを確認し、ドライバのインストールが完了するまで待ちます。

ステップ 9 （任意） ISO イメージ ファイルから Windows をインストールしている場合、ドライバの ISO イメージのマッピングを解除し、Windows のインストール イメージをマッピングし直します。

a) **KVM コンソール**の [VM] タブまたは [Virtual Media Session] ダイアログボックスに戻ります。

b) [Client View] 領域で、ドライバの ISO ファイルに対応する [Mapped] 列のチェックボックスをオフにします。

c) Windows インストール イメージに対応する [Mapped] 列のチェックボックスをオンにし、マッピングが完了するまで待ちます。

d) [KVM] タブの Windows インストール メッセージに戻ります。

e) （任意） インストール手順に、インストール ディスクが見つからないため続行できないというエラーが表示される場合、画面の下部にある [Refresh] をクリックし、インストール手順のインストール ISO イメージとの接続を更新します。

ステップ 10 「Where do you want to install Windows?」 の画面で、Windows のインストール先となるディスクまたはパーティションを選択し、[Next] をクリックします。

ステップ 11 自社の要件と標準に従い、インストールの進行状況を監視し、必要に応じてメッセージに応答してインストールを完了します。
Windows のインストールが完了すると、サーバが再びリブートします。続いて、Ctrl+Alt+Del を押し、ログインして Windows デスクトップにアクセスするよう求めるメッセージが表示されます。 Windows インストール プロセス中に指定したログイン資格情報を使用します。

（注） この時点では、サーバ チップセットやイーサネット コントローラなどのデバイス用のデバイス ドライバがまだインストールされていません。 **Windows Device Manager** で、ドライバが必要なデバイスは黄色のフラグ付きで表示されます。

ステップ 12 **Windows File Manager** を使用して、手順 1 で Cisco ドライバを抽出したフォルダに移動します。ドライバ DVD フォルダ構造の詳細については、Windows のインストール ドライバ, （21 ページ）を参照してください。

ステップ 13 **Windows Device Manager** を起動し、まだ黄色のフラグが付いているデバイスがないか確認します。 黄色のフラグが付いているフラグがあれば、**Device Manager** を使用してドライバを手動でインストールします。

ブート可能 SAN LUN への Windows Server 2012 または Windows Server 2008 のインストール

ここでは、Cisco UCS Manager GUI と **KVM コンソール**を使用して、ブート可能 SAN LUN に Windows Server 2012、Windows Server 2008 x64、または Windows Server 2008 R2 x64 と必要なドライバをインストールする方法について説明します。

はじめる前に

- インストールの前提条件のチェックリスト, （2 ページ）とサービス プロファイル設定の前提条件, （4 ページ）に説明されている前提条件を満たします。
- SAN で LUN または RAID ボリュームを構成し、SAN に接続して SAN HBA から LUN へのパスが 1 つ（1 つのみ）存在していることを確認します。

手順

ステップ 1 実際に取り付けているデバイスのドライバは、*Cisco UCS B-Series Drivers DVD* または DVD の ISO ファイルから探し、サーバからアクセスできる場所に抽出します。

ヒント 必要なドライバがわからない場合は、サーバをリブートし、出力メッセージを確認します。 デバイスが初期化されると、ブート プロセスでそのデバイスに関する情報が表示されます。 詳細については、インストール ドライバの情報, （21 ページ）を参照してください。

ステップ 2 仮想メディアから OS またはドライバをインストールする場合、**KVM コンソール**を起動し、インストール ISO イメージのマウント, （7 ページ）の説明に従ってメディアをマウントします。

ステップ 3 次のいずれかの方法で、サーバの電源を再投入します。

- **KVM コンソール**の [KVM] タブを開き、[Macros] > Ctrl+Alt+Del を選択します。
- Cisco UCS Manager GUI で、[General] タブの [Actions] 領域の [Reset] をクリックします。
- 物理サーバの電源ボタンを押します。

ヒント サーバがインストール メディアからブートしない場合、サービス プロファイル設定の前提条件, （4 ページ）の説明に従って、関連するサービス プロファイルに正しいブート順が設定されていることを確認します。

ステップ 4 通常のブート順を上書きし、インストール メディアからブートするには、**KVM コンソール**の [KVM] タブで、ブート メッセージを確認し、[Boot Menu] を開くメッセージが表示されたら、F6 を押します。

ステップ 5 [Boot Menu] 画面で、次のいずれかを実行します。

- ISO イメージを使用する場合、[Cisco Virtual CD/DVD] を選択し、Enter を押します。
- 物理インストール ディスクを使用する場合、そのディスクが挿入されているディスク ドライブを選択し、Enter を押します。

選択したデバイスからサーバがリブートし、イメージまたはディスクから OS のインストールが開始されます。

ステップ 6 CD からブートすることを確認するメッセージが表示されたら、Enter を押します。 会社の要件と標準に従ってインストールに関する質問に答え、[Where do you want to install Windows?] 画面が表示されたら、次の手順に進みます。

重要 [Viking eUSB] と表示されているドライブには、Windows OS またはドライバをインストールしないでください。 OS では、eUSB ドライブはローカル ドライブと同じと見なされますが、Cisco UCS Manager では、サーバのブート ドライブとして使用するローカル ドライブを指定できません。 UCS Manager では、常に物理ローカル ドライブからサーバが起動され、内部 USB（eUSB）ドライブがあっても無視されます。

ステップ 7 自社の要件と標準に従い、インストールの進行状況を監視し、必要に応じてメッセージに応答してインストールを完了します。
Windows のインストールが完了すると、サーバが再びリブートします。続いて、Ctrl+Alt+Del を押し、ログインして Windows デスクトップにアクセスするよう求めるメッセージが表示されます。 Windows インストール プロセス中に指定したログイン資格情報を使用します。

（注） この時点では、サーバ チップセットやイーサネット コントローラなどのデバイス用のデバイス ドライバがまだインストールされていません。 **Windows Device Manager** で、ドライバが必要なデバイスは黄色のフラグ付きで表示されます。

ステップ 8 **Windows File Manager** を使用して、手順 1 で Cisco ドライバを抽出したフォルダに移動します。ドライバ DVD フォルダ構造の詳細については、Windows のインストール ドライバ, （21 ページ）を参照してください。

ステップ 9 **Windows Device Manager** を起動し、まだ黄色のフラグが付いているデバイスがないか確認します。 黄色のフラグが付いているフラグがあれば、**Device Manager** を使用してドライバを手動でインストールします。

付 録 A

インストール ドライバの情報

この付録は、次の項で構成されています。

- Windows のインストール ドライバ，21 ページ
- 取り付け済みデバイスの表示，22 ページ

Windows のインストール ドライバ

必要なインストール ドライバとドライバの詳細情報は、*Cisco UCS B-Series Drivers DVD* で入手できます。

（注） 『*Cisco UCS B-Series Drivers DVD*』 ISO イメージは、Cisco.com サポート サイトで [ダウンロード] > [サーバ - ユニファイド コンピューティング] > [Cisco UCS B シリーズ ブレード サーバ ソフトウェア] > [ユニファイド コンピューティング システム（UCS）のドライバ] を選択して入手できます。 直接 URL は http://www.cisco.com/cisco/software/type.html?mdfid=283853163&flowid=25821 です。

ドライバは、オペレーティング システム別にトップレベルのフォルダに整理されています。また、必要なドライバを見つけやすいように、各オペレーティング システム フォルダは、階層が深くなるほど詳細な分類になるように複数階層のサブフォルダで構成されています。 ドライバが含まれるフォルダに移動すると、そのドライバの使用対象について説明した 1 つまたは複数の README ファイルもあります。

Windows のフォルダ構造の例を次に示します。

```
Windows
   ChipSet
      vendor
         blade-model-number
            OS-version-number
               All
               ia64
               Lang (contains language subfolders)
               Vista
               x64
```

```
Mgmt
   Emulex
      model-number
         ElxPlus
            OS-version-number
               x64
Network
   vendor
      model-number
         OS-version-number
            x64
Security
   TPM
      OS-version-number
            x64
Storage
   vendor
      model-number
         OS-version-number
            x64
Video
   Matrox
      G200e
         OS-version-number
            x64
```

たとえば、Cisco UCS M81KR 仮想インターフェイス カード用の Windows Server 2008 Release 2 ドライバについては、`Windows/Network/Cisco/M81KR/W2K8R2/x64` フォルダを参照してください。

取り付け済みデバイスの表示

UCS Manager GUI を使用した取り付け済みデバイスの表示

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインの [Equipment] タブをクリックします。

ステップ 2 [Equipment] タブで、[Equipment] > [Chassis] > *[Chassis Number]* > [Servers] > *[Server Number]* > [Adapter] の順に展開します。

ステップ 3 [Work] ペインの [Adapters] タブを確認します。
選択したサーバにインストールされているすべてのアダプタが表に表示されます。

UCS Manager CLI を使用した取り付け済みインターフェイス カードの表示

手順

ステップ 1 Telnet または SSH を使用して UCS システムに接続します。

ステップ 2 UCS-A# **scope server** *chassis-id* / *server-id*
指定したシャーシの指定したサーバについて、シャーシのサーバ モードを入力します。

ステップ 3 UCS-A /chassis/server # **show adapter**
サーバに取り付けられているインターフェイス カードの一覧が PID 番号順に表示されます。

```
switch-A # scope chassis-2 server10
switch-A /chassis-2 # show adapter

Server 1/1:
Adapter PID Vendor Serial Operational State
------- ---------- ---------------- ------------ -----------------
1 N20-AE0002 Cisco Systems Inc EXM12510017 Operable
2 N20-AE0003 Cisco Systems Inc EXM12510018 Operable

switch-A /server-qual #
```

KVM コンソールを使用した取り付け済みデバイスの表示

手順

ステップ 1 Web ブラウザで、Cisco UCS Manager GUI の Web リンクを入力または選択します。

例：
HTTP アクセスのデフォルトの Web リンクは、IPv4 アドレスの場合は `http://UCSManager_IP`、IPv6 アドレスの場合は `http://UCSManager_IP6` です。 HTTPS アクセスのデフォルトの Web リンクは、IPv4 アドレスの場合は `https://UCSManager_IP`、IPv6 アドレスの場合は `https://UCSManager_IP6` です。 スタンドアロン設定では、*UCSManager_IP* または *UCSManager_IP6* は、ファブリック インターコネクトの管理ポートの IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスをそれぞれ表します。 クラスタ設定では、*UCSManager_IP* または *UCSManager_IP6*

は、Cisco UCS Manager に割り当てられた IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスをそれぞれ表します。

ステップ 2 Cisco UCS Manager の起動ページ の [Launch KVM Manager] をクリックします。

ステップ 3 [Security Alert] ダイアログボックスが表示された場合は、[Yes] をクリックしてセキュリティ証明書を受け入れ、続行します。

ステップ 4 [UCS - KVM Launch Manager Login] ページで、次の手順を実行します。

a) Cisco UCS のユーザ名およびパスワードを入力します。

b) （任意） Cisco UCS 実装に複数のドメインが含まれている場合は、[Domain] ドロップダウンリストから適切なドメインを選択します。

c) [OK] をクリックします。

ステップ 5 KVM Launch Manager の [Service Profiles] テーブルで、次の手順を実行します。

a) インストール済みデバイスの確認に使用するサービスプロファイルとそれに関連するサーバを含む行を探します。

b) そのサーバの [Launch KVM] 列の [Launch] をクリックします。
別ウィンドウに KVM コンソールが表示されます。

ヒント KVM セッションを開いたときにキーボードの Caps Lock キーがオンになっており、その後に続いて Caps Lock キーをオフにすると、**KVM コンソール**は Caps Lock キーがオンのときのように動作する場合があります。 KVM コンソールとキーボードを同期させるには、**KVM コンソール**にフォーカスがない状態で Caps Lock キーを 1 度押し、次に **KVM コンソール**にフォーカスを置いて Caps Lock キーをもう一度押します。

ステップ 6 サーバをリブートし、ブートアップ時にコンソール画面に表示される取り付け済みデバイスに関する情報を確認します。